

**Citation:** Chan ES-Y, Thornhill M, Zakrzewska J. Interventions for treating oral lichen planus. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 1999, Issue 2. Art. No.: CD001168. DOI: 10.1002/14651858.CD001168.

**CRG名:** Oral Health

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 4 December 1998

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 1; -

**背景:** 口腔扁平苔癬は、口腔粘膜を侵す病因不明な慢性自己免疫疾患である。症状の基本は痛みで、年齢とともに悪化する傾向にあり、寛解はまれである。現在の治療方法は緩和(姑息)的であり、治癒させるものではない。効果に対する明確なエビデンスはほとんどないが、多くの局所的/全身的な薬剤が試みられている。

**目的:** 症候性(症状のある)口腔扁平苔癬の治療のために、プラセボ対照のあらゆる種類の緩和治療の効果と安全性を評価すること。

**検索戦略:** 電子データベース、議事録と特定のジャーナルのハンドサーチ、この領域の研究者、製薬メーカー。

**選択基準:** ランダム化または準ランダム化デザインを用いて症状や臨床的徴候の変化を測定した、症候性口腔扁平苔癬の緩和治療のプラセボ対照試験。

**データ収集と分析:** 治療終了時の症状(痛み、不快感)と臨床的徴候(視覚的な印象、病変の大きさ)の変化。それぞれの試験のアウトカムと、適切な場合にはその集合における改善対非改善のオッズ比。

**主な結果:** 全部で9つのランダム化比較試験が認められた。9つの介入は比較のために4つの分類(シクロスポリン、レチノイド、ステロイドと光線治療)に分けられた。どの治療法も厳密には追試験されていなかったが、最も追試験に近かったのは高・低濃度のシクロスポリン洗口剤を使っている2つの試験であった。各々の治療の分類で同じアウトカムを記録している試験だけがプールされた。プールされた試験数は最大で3であった。非常に信頼区間の広い、大きなオッズ比がすべての試験で統計学的に有意な治療効果を示していた。しかし、小さな研究規模、追試験の欠如、アウトカムの変化の測定における困難性、非常に高い出版バイアスの可能性を考慮すると、この結果は差し引いて考えなければならない。全身性の薬剤のみが治療の毒性と関連していたが、他のすべての副作用は軽度で、主に局所的な粘膜反応に限られていた。

**レビューアの結論:** 本レビューは症候性口腔扁平苔癬の緩和のために、プラセボ対照で評価された介入の優位性について弱いエビデンスのみを示した。この結果は治療間比較が適切に解明される前に、より注意深く選択・標準化されたアウトカム指標での大規模なプラセボ対照ランダム化比較試験の必要性を明らかにした。

(翻訳 大山 篤・監訳 湯浅秀道; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。